

平成 28 年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園さつなえのもり

1. 本園の教育目標

「豊かな保育を通して、生きる力を育てる」 (やさしい子、かしこい子、つよい子)

- ・豊かな人間関係がつかれ、思いやりのある子
- ・何事にも関心を示し、意欲的で想像力と創造性の豊かな子
- ・健康な心身を持ち強い意志と自立心と自律性のある子

2. 今年度の重点目標

「一人一人が集団の中で育ち合う、豊かな保育環境作りを目指す」

子ども一人一人の個性を尊重し、子どもが自分で考え、判断し、行動するという自発的で主体的な活動を納得いくまで取り組めるようにすると共に、乳幼児期こそ育つ豊かな感性を最大限伸ばしていけるような保育環境作りを目指していく。

3. 評価結果及び改善策

(1) 「全体的な計画」に基づく保育の計画性について

[幼児部]

- ・余裕をもって指導計画を立て、見通しをもって保育を行った。
- ・指導案を通して、シミュレーションをすることで臨機応変な保育ができた。
- ・活動ごとに導入を工夫し、子どもが意欲をもって取り組める保育を行うことができた。

[乳児部]

- ・日課を大切に活動計画を立て実施することで、子ども達も見通しを持ち安心して気持ちで過ごすことが出来た。今後も無理せず、余裕を持ったスケジュールで取り組んでいくことにする。
- ・子どもの発達を捉え、保育教諭間の共通理解、連携がしっかり取れるよう話し合いをし保育を進めていくことができた。

(2) 保育のあり方、幼児への対応について

[幼児部]

- ・一人一人の成長や発達を理解し、それぞれにあった対応を心がけた。
- ・いろいろなことに挑戦し、自信を持てるような場をつくり援助の仕方に配慮した。
- ・要支援児に対して安心して園生活が送れるような環境やかかわり方に工夫を行った。

[乳児部]

- ・子どもの個々の成長に合わせた心の動きや問題点などを的確に捉え対応することを意識してきた。
- ・「子どもの心が動いてから」を大切に、子ども達が主体的に活動出来るような環境作りやかかわり方を考え実践した。

(3) 研修と研究について

[幼児部]

- ・乳児部との合同研修会を通して、幼保連携型認定こども園としての教育・保育の意味を確認できた。
- ・「いっしょにできるよ」のプログラムにより、子どもも楽しみながら活動でき様々な経験ができた。

[乳児部]

- ・園内・外の研修を通しておもちゃの発展した遊びを知ることができ、日常の子どもへの接し方を見直すことができた。
- ・研修会参加から得るものだけでなく、個人の知識習得の努力によってさらに実践力を高めていきたい。

(4) 保護者への対応について

[幼児部]

- ・保護者の不安が強い時期には、こまめに連絡を取り、話を聞くように努めた。
- ・言葉を選び、礼儀を忘れず落ち着いて対応できるように努めることができた。
- ・保護者と連携を取りながら、子どもの成長を見守ることができた。

[乳児部]

- ・連絡帳に頼りすぎず、コミュニケーションを重視、保護者の頑張り認め寄り添う気持ちを持つことを大切に信頼関係を築けるよう努めてきた。園として共通した対応の仕方やどんな些細なことでも話しやすい環境作りを心がけたい。

(5) 地球の自然や社会とのかかわりについて

[幼児部]

- ・挨拶等を通して、近隣地域の人とのコミュニケーションを図ることができた。
- ・「もりのようちえん」や「自然遊び」等を通して、自然や人とかかわりを深めることができた。
- ・地域の小・中学校との交流活動を通して、異年齢のかかわりを持つことができ、いい経験になった。

[乳児部]

- ・天候や子ども達の体調を考慮しながらほぼ毎日外遊び、散歩を楽しむことができて心と体の成長に繋がった。
- ・室内の手の届くところに植物を置き水やりをしたり、虫の飼育・観察を楽しみ生き物への興味が高まった。
- ・乳児は地域とのかかわりが少ないので、散歩時に会う人との挨拶交流を大切にしてきた。